2010年（平成２２年）　12月１日　第30号　　（財）柳田國男・松岡家顕彰会発行

記念館新聞

財団法人柳田國男・松岡家顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038の12
電話：0790-22-1000

岩田健三郎年賀状 版画教室開催します。

姫路市を拠点に活躍されている版画家、岩田健三郎氏の指導で、年賀状の版画教室を開きます。来年の干支「卯」を彫ります。皆さんのご参加をお待ちしています。

日　時　12月5日（日）14時～

場所　記念館２階講義室

費用　材料代一枚百円
※会員以外の方は、別途入館料が必要です。
※小学低学年は保護者同伴で参加してください。

持参品　筆記用具、彫刻刀
彫刻刀をお持ちでない方はお申し出下さい。

申込み　TEL22－1000

講師紹介

姫路市生まれ。
大阪市立美術館付設の美術研究所で彫刻や油絵を学び、イラストレーターとして活動。また、テレビやラジオのパーソナリティや、シンガーソングライターとしても活躍。
現在、ご夫婦で水上村・川のほとりの美術館（姫路市野里）も運営されています。

くにょはん覚書

○松子の伊勢参り

むかし伊勢の大神宮様へ、出羽の北秋田の独鈷（とっこ）という村の者だと言って、若い男と女とが二人連れで御参りをして来ました。女の名は松子と謂って、田舎の人にしては珍しく上品な美しい女でありました。この二人が旅費が足りなくなって、大へんに困っているのを、宿屋の主人が見て気の毒に思いまして、そんなら来年誰かお前様方の村の衆が参宮なさる時に、ことづけて返して下さいと言って、入用なだけのお金を貸してやりました。

昔の伊勢参拝の様子

ところがその次の年に、独鈷の村の人が来ましたから、あの金は持って来てくれたかと尋ねましたけれども、私たちの村には松子などというそんな美しい人はおらぬ。これはどうしたわけであろうかと、客も亭主も驚いてしまいました。村の人たちにこの話をしますと、なるほど、それでやっと合点がいった。村の諏訪神社の森の高い松の木の上に、三年も前からああして白く見えているのは、どうも伊勢の御祓いのようだと思っていた。それでは一つ下して見ようといって、松ノ木に登ってその白いものを取ってみると、果たしてそれは神宮のお札でありそんなら確かにこの二本の松が、人の形になって伊勢参りをしたのであった。早速、金を返すがよいと、村で金を集めて、すぐに伊勢の宿屋へ送り届けたそうであります。そうしてその二本の松の樹の一方が女で、名前が松子さんであったことも、この時からわかったのであります。

（出典　柳田國男『日本昔話集』）

井上通泰と十二月

井上通泰は慶応2年12月21日に姫路市元塩浜町熊川舎に父松岡賢次、母たけの三男として生まれました。幼名は泰蔵でした。

明治10年12月、12歳で神東郡田原村吉田（福崎町南田原）の医師井上碩平の養子となります（正式な入籍は翌年1月）。そして通泰と改名します。その後、眼科医になった通泰は東京の自宅に井上眼科医院を開業しました。そして姫路病院副院長、第三高等学校医学部眼科教授を経て、明治35年には再び東京で眼科を開業します。しかし大正15年のやはり12月に還暦を期に、医業を辞め、国文学・国史学に専念しました。晩年の昭和13年12月76歳でには貴族院勅撰議員になっています。

（財）柳田國男・松岡家顕彰会は来年3月末日をもって解散し4月からは町営として運営されます。

地域の皆様に親しまれ愛される記念館が町営として実現できることを福崎町に依頼しております。

皆様の意見は直接、福崎町教育委員会社会教育課までお寄せください。
22－0560（内線256）